

かわしりいせき

## 川尻遺跡

(相模原市城山町No.1遺跡)

調査期間 20090101～20090715

所在地 相模原市城山町谷ヶ原

時代 縄文  
奈良・平安  
中・近世



作成日:20090925

### 概要

川尻遺跡の発掘調査は、神奈川県企業庁が進めている水道施設相互融通化整備事業に基づく相模原市大島～城山町谷ヶ原地内送水管布設工事に先立つ調査です。

川尻遺跡の立地は、西から南東方向に向きを変える相模川の左岸と小河川谷津川が合流する段丘上の標高141～142mに位置しています。

遺跡は、大正年間に発見され、昭和5年の発掘調査で縄文時代の敷石住居址が多く検出され、打製石斧(だせいせきふ)、石匙(いしさじ)、石鏃(せきぞく)、石剣(せつけん)、敲石(たたきいし)、石皿(いしざら)、砥石(といし)、石棒(せきぼう)、甕形土器(かめがたどき)、土偶(どぐう)、土製円盤(どせいえんばん)等の出土が確認され、その一部は昭和6年7月31日に国の史跡として指定されました。

周辺の遺跡は、本調査地から約300m南東の相模川左岸の段丘上に川尻中村遺跡があり、相模川の対岸南西約600mの段丘上に原東(はらひがし)遺跡があります。

今回の調査では、奈良・平安時代～中・近世では、溝状遺構、土坑、ピット等の遺構が発見され、陶磁器、金属製品、銭貨等の遺物が出土しました。

縄文時代では竪穴住居址、集石、土坑、ピット、陥穴(おとしあな)状土坑等の遺構が発見され、縄文土器、石器等の



▲J1号竪穴住居址



▲J2号竪穴住居址

遺物が出土しました。

調査の結果、奈良・平安時代～中・近世と縄文時代の遺構は、やや散漫な分布状態を示していることから、集落の縁辺部に位置するものと考えられることや遺物では縄文土器等の遺物が数多く出土したこと等の成果を得られました。



▲J1号遺物集中